

完成図作成

目 次

1	完成図面作成	- 1
	(1) 設計図面データを受注者へ提出	- 1
	(2) 作成手順	- 1
	(3) 図面タイトル等	- 1
	(4) 平面図	- 3
	(5) 横断図	- 6
	(6) データの測定方法	- 6
	(7) 完成図に追記すべきこと	- 9
	(8) 取付管作成	- 9
2	市担当者が行うべきチェック等	- 13
	(1) 完成平面図	- 13
	(2) 添付図面等	- 13

1 完成図面作成

(1) 設計図面データを受注者へ提出（市担当者対応）

(2) 作成手順

図面タイトル・位置図・凡例・断面図等を記入する。完成図の例を、別途示していますので参考にして下さい。

チェックが済んだ後、データを保存したCDを納品して下さい。（縮小図面：1部（A-3）、データ）

(3) 図面タイトル等

工事名・工期等

下記要領で記入する。

平成20年度 東広島市公共下水道事業 号汚水幹線建設工事（東20 - 1）				工 事 名	
種 別	完成図	縮 尺	1:500 1:100		
工事箇所	東広島市西条町大字田口	図 番	No 1 計 1		
路線番号	5094 -1				
東広島市下水道部下水道建設課					
工 期	自 平成 20 年 5 月 1 日			契 約 工 期	
	至 平成 20 年 9 月 30 日				
施 工	× 建設(株)				

位置図

施工か所を で囲み記入する。（縮尺 1/5000～1/10000 程度）

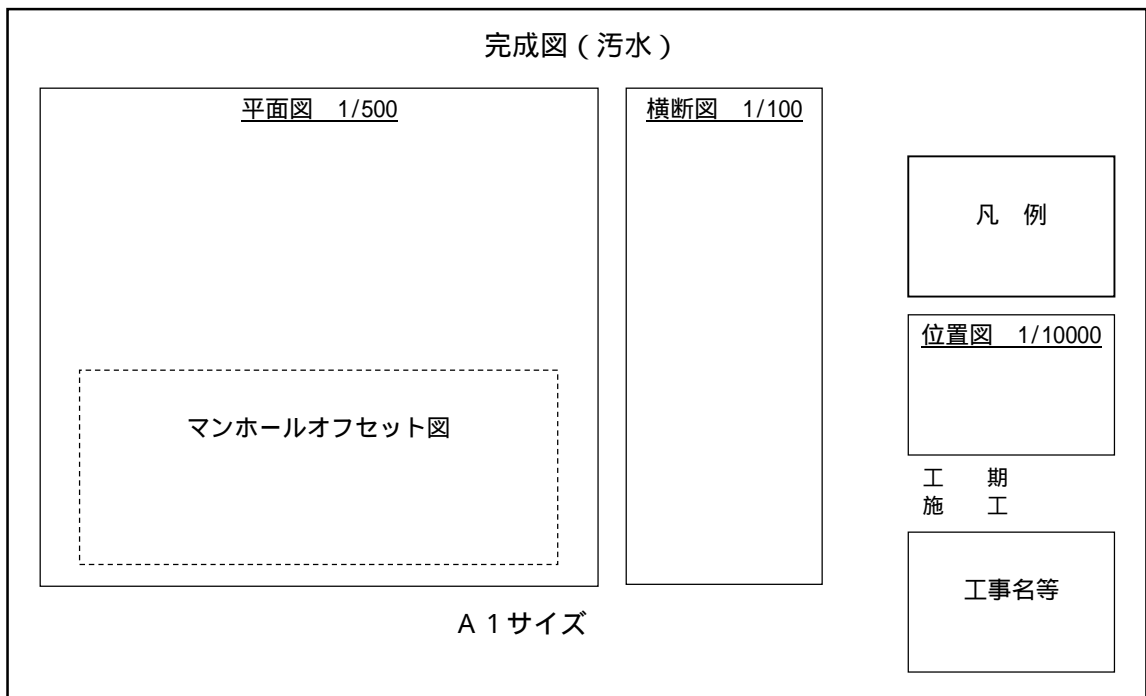
凡例

凡 例	
←————	汚 水 実 施
←-----	汚 水 既 設
←-----	汚 水 計 画
←————	雨 水 実 施
←——+——	雨 水 既 設
←——++——	雨 水 計 画
←----- (P)	圧 送 管
○●————	副 管
○●←————	内 副 管
————●	汚 水 樹
————▲	污水管キャップ止め
——(W)——	水 道 管
——(G)——	ガ ス 管
——(N)——	N T T ケ ー ブ ル
——(E)——	中 電 ケ ー ブ ル
◎	楢 井 組 立 マ ン ホ ー ル
●	1 号 マ ン ホ ー ル
○	2 号 マ ン ホ ー ル
◎	3 号 マ ン ホ ー ル
△	特 0 号 組 立 マ ン ホ ー ル
●	0 号 組 立 マ ン ホ ー ル
◎	1 号 組 立 マ ン ホ ー ル
◎	2 号 組 立 マ ン ホ ー ル
◎	3 号 組 立 マ ン ホ ー ル
⊗	小 型 マ ン ホ ー ル
∇	小 型 マ ン ホ ー ル (塩 ビ 製)
⊗	特 殊 マ ン ホ ー ル
()	参 考 表 示

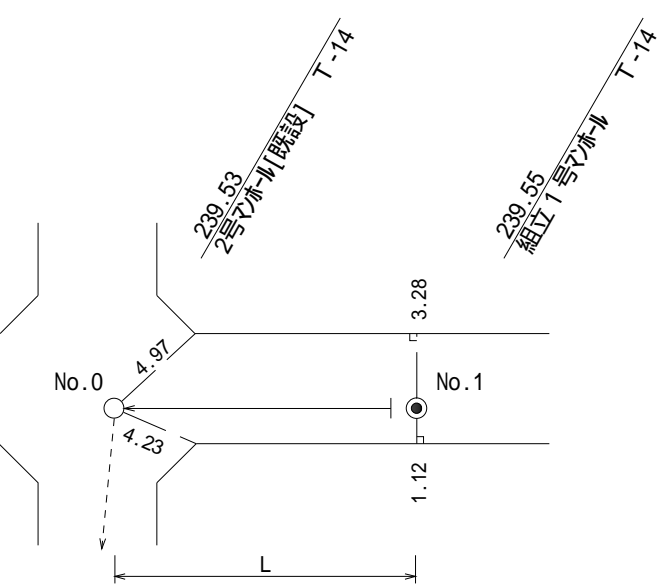
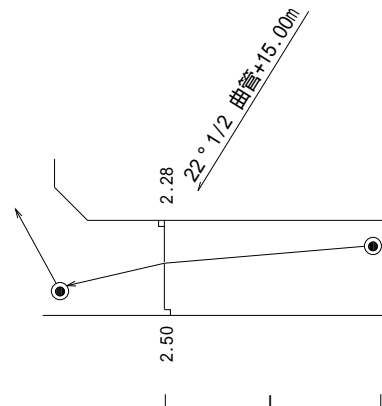
タイトル

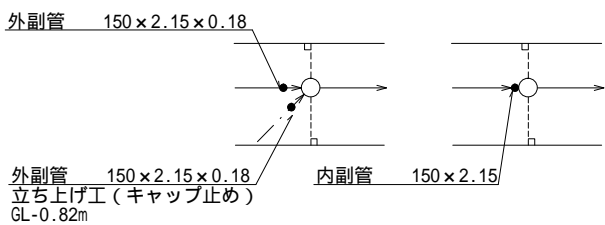
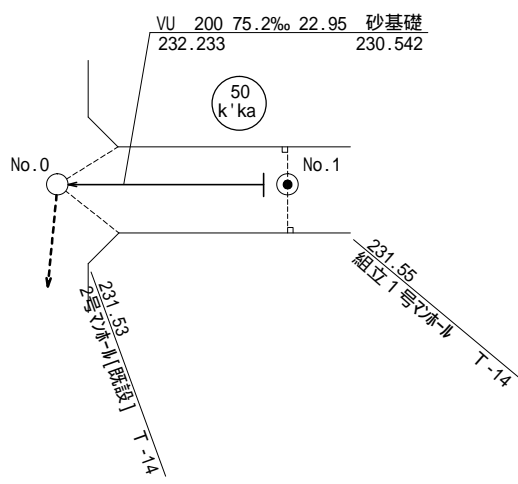
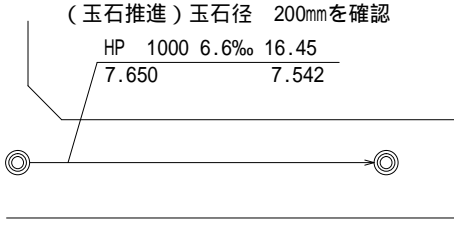
完成図と表示し、右横に汚水と書く。

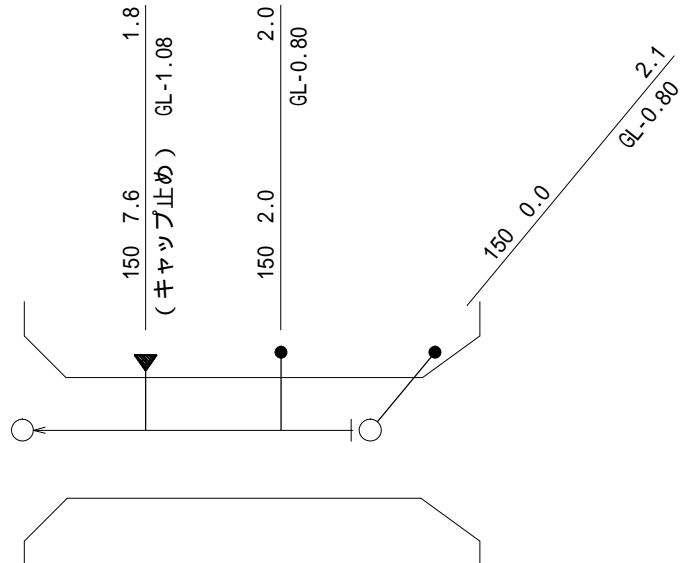
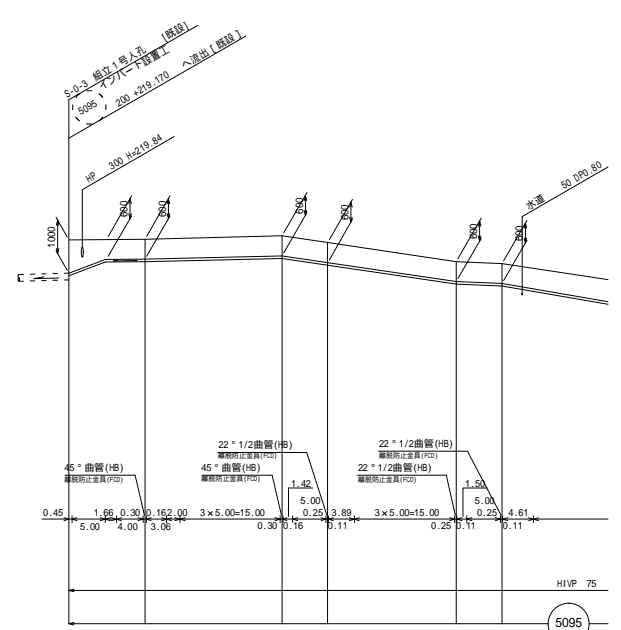
配置



(4) 平面図

項目	記入方法	記入例
タイトル	図面上の中央に記入する。	<p style="text-align: center;">平面図 1/500</p>
マンホール	計測されたオフセットと管渠の区間距離をもとに記入する。	
オフセット	オフセットラインとオフセット値を記入する。単位はmで小数第2位まで。	
マンホール番号	設計図とできるだけ同じ番号をシンボルの横に記入する。	
地盤高	マンホールに向けた線の上側に記入する。単位はmで小数第2位まで。	
マンホール種別、マンホール蓋種別	マンホールに向けた線の下側に記入する。特殊マンホールは外形寸法と内径寸法をカッコ書きで記入し、別途構造図を作成する。	
既設マンホール、マンホール蓋種別	工事において接続した既設マンホールを記入し、線の下側に記入する。	
起点マンホール	起点マークを記入する。	
曲管	工事において布設した曲管を記入し、片矢印で曲管と記入する。上流のマンホールから距離を記入する。	

項目	記入方法	記入例						
副管	管渠ライン上のマンホールシンボルの隣に黒丸で記入する。	<p style="text-align: center;">外(内)副管 管径×延長×奥行</p> <p style="text-align: center;">外副管 内副管</p> 						
副管データ	管径：mm 延長：mで小数第2位まで 奥行：mで小数第2位まで 内副管の場合の奥行は無記入	<p>外副管 150×2.15×0.18</p> <p>内副管 150×2.15</p> <p>立ち上げ工（キャップ止め） GL-0.82m</p>						
管ライン	マンホールとマンホールを結ぶラインを引き下流方向へ矢印をつける。	<p>記入形式</p> <p>管種 管径 勾配 区間距離 基礎 管底高</p> 						
管データ	管ラインと平行に記入し、下流側に下流管底高、上流側に上流管底高を記入する。 管種 管径：mm 区間距離：mで小数第2位まで 勾配：‰で小数第1位まで (小数第2位を四捨五入) 管底高：mで小数第3位まで 路線番号を記入する。	<p>記入形式</p> <p>管種 管径 勾配 区間距離 基礎 管底高</p> <p>VU 200 75.2‰ 22.95 砂基礎 230.542</p> <p>232.233</p> <p>50 k'ka</p> <p>No.0 No.1</p> <p>231.53 組立1号記号 T-14</p> <p>231.55 組立1号記号 T-14</p>						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">補足事項</th> <th style="width: 40%;">記入方法</th> <th style="width: 40%;">記入例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="459 1305 678 1556">サヤ管</td> <td data-bbox="678 1305 1029 1556">管種管径のあとにかっこ書きで記入する。サヤ管がスパンの一部の場合、引出線でサヤ管の起終点と延長を記入する。(水路横断工など)</td> <td data-bbox="1029 1305 1401 1556">VU 250 (HP 1000)</td> </tr> </tbody> </table>			補足事項	記入方法	記入例	サヤ管	管種管径のあとにかっこ書きで記入する。サヤ管がスパンの一部の場合、引出線でサヤ管の起終点と延長を記入する。(水路横断工など)	VU 250 (HP 1000)
補足事項	記入方法	記入例						
サヤ管	管種管径のあとにかっこ書きで記入する。サヤ管がスパンの一部の場合、引出線でサヤ管の起終点と延長を記入する。(水路横断工など)	VU 250 (HP 1000)						
工法	開削工法以外の工法（推進工法等）を用いた場合は、管データの隣に詳しく明記しておく。	<p>(玉石推進) 玉石径 200mmを確認</p> <p>HP 1000 6.6‰ 16.45</p> <p>7.650 7.542</p> 						

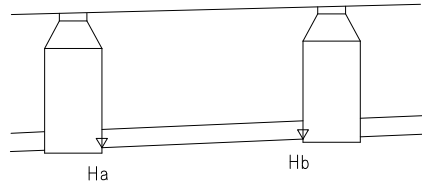
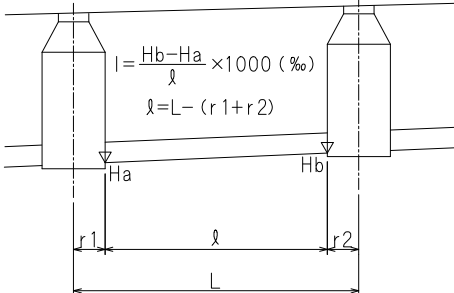
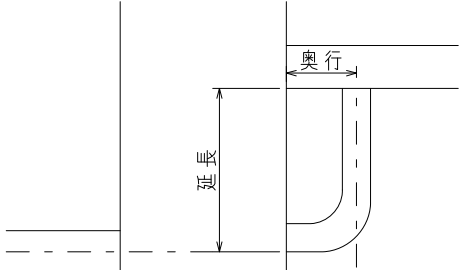
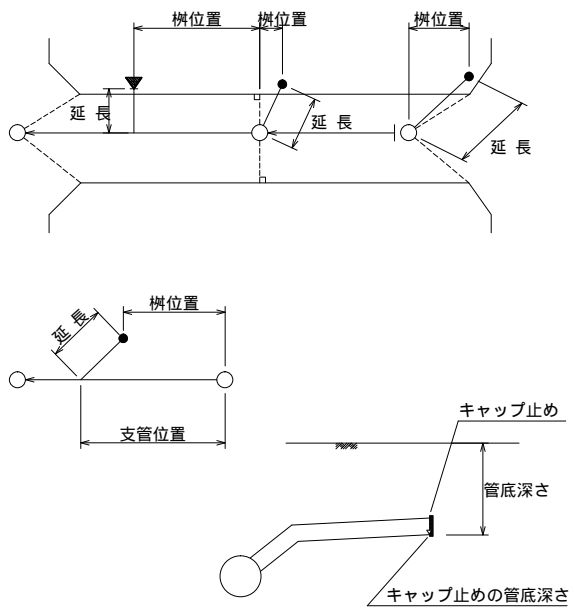
項目	記入方法	記入例
仮接続	上下流管底高の間に < 仮接続 > と記入する。	$\frac{VU \ 250 \quad 4.32}{7.650 \ < \text{仮接続} \ > \ 7.542}$
取付管	取付管の延長、柵（キャップ止め）位置、支管位置をもとに管渠ラインに取付管と柵を記入する。	<p>記入形式 $\frac{\text{管径} \ \text{上流からの柵位置} \ \text{柵所有者} \ \text{取付延長}}{\text{(キャップ止め)} \ \text{柵深さ}}$</p>
取付管データ	<p>管径：mm 延長：mで小数第1位まで 柵位置 （キャップ止め位置）： mで小数第1位まで 柵所有者氏名 キャップ止めの場合は（キャップ止め）と記入する。 キャップ止めの管底深さ： キャップ止めの位置を示すピンからのGLマイナス管底深さを記入する。 mで小数第2位まで</p>	 <p>支管位置が本管に対して 90° でないときは、支管位置を記載する。（柵位置の後に支管距離を記載）</p>
圧送管データ	縦断図を作成し、使用した材料および土被りを記載する。	

(5) 横断図

項目	記入方法	記入例
断面位置	平面図に断面位置を - 断面と記入する。	<p style="text-align: center;">横断図 1/100</p> <p style="text-align: center;">- 断面</p>
作図	平面図の空欄部分に、断面にある全ての埋設物を記入する。	

(6) データの測定方法

項目	記入方法	記入例
オフセット	マンホールを中心から官民境界までの最短距離（直角距離）を測定する。 交差点部分については、街路の角切りから測定する。 単位はmで小数第2位まで。 民地境界や電柱などから測定しないこと。	
区間距離	マンホール中心間の水平距離を測定する。 マンホール中心と管渠の会合点が一致しない場合は、管渠の会合点基準にする。 単位はmで小数第2位まで。	

項目	記入方法	記入例
管底高	マンホール管口の高さ (Ha, Hb) を測定する。 単位はmで小数第3位まで。	
勾配	上流管底高 (Ha) と、下流管底高 (Hb) の差を管渠の実延長 (ℓ) で除して求める。 (管渠の実勾配) 勾配：‰単位で小数第1位まで (小数第2位を四捨五入)	
副管データ	管径：mm 延長：mで小数第2位まで 奥行：mで小数第2位まで	
取付管データ	管径：mm 延長：mで小数第1位まで 柵位置 (キャップ止め位置)：mで小数第1位まで 支管位置：mで小数第1位まで キャップ止めの管底深さ： キャップ止めの位置を示すピンからのGLマイナス管底深さを記入する。 mで小数第2位まで	

下水道標準図に掲載の無いマンホールは、別途構造図が必要です。

記号	名称
○ —	起点マンホール
—>●○	外副管
—●>○	内副管

管渠

管種・管材	
記号	名称
HP	ヒューム管
SHP	推進用ヒューム管
VU	塩化ビニル管
PRP	リップ付塩化ビニル管
FRP	強化プラスチック管
REC	レジンコンクリート
PEP	ポリエチレン管
DCIP	鋳鉄管
SP	鋼管
SUS	ステンレス管

(7) 完成図に注意すべきこと

鞘管の位置 延長・材質を引出線で鞘管の起終点を図示して下さい。

立坑矢板等残置している場合、『GL-1.0以下を矢板(ケーシング、ライナープレート)残置』等のコメントを図示して下さい。(大きさ、残置長さを記載)

(8) 取付管作成

次頁に、参考図面を添付する。

路線番号

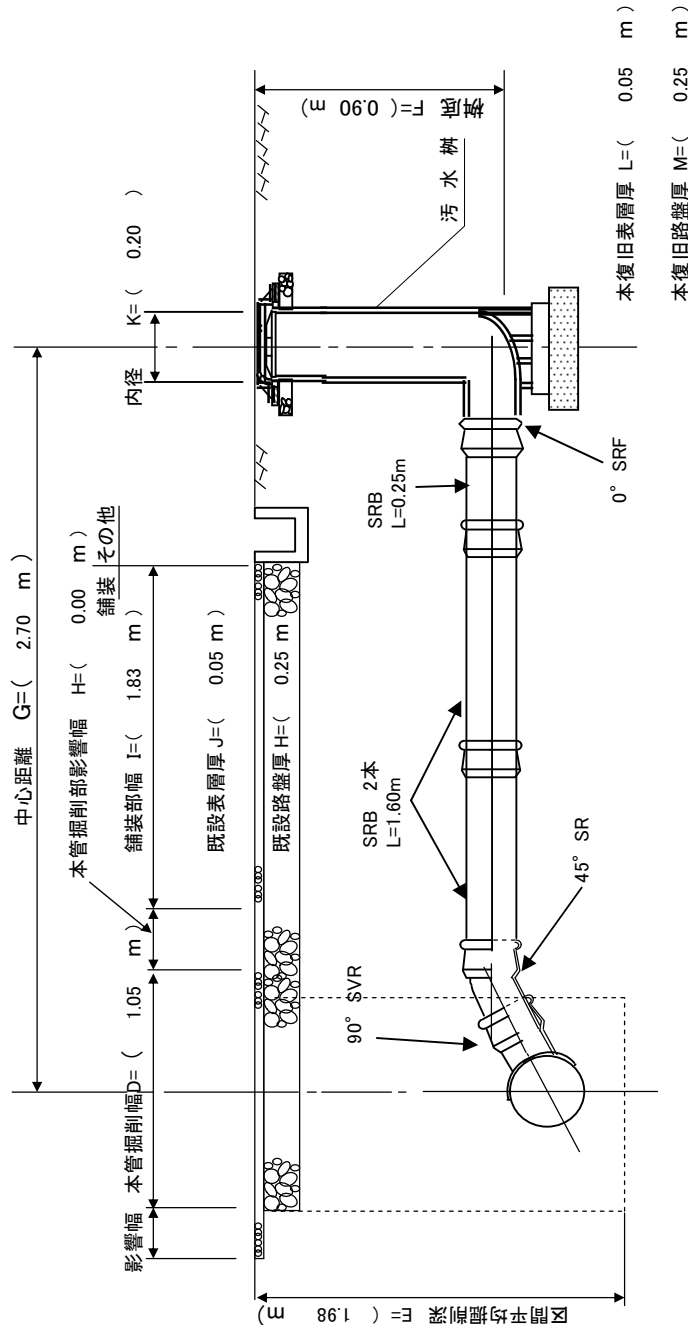
(292)

取付管出来形図

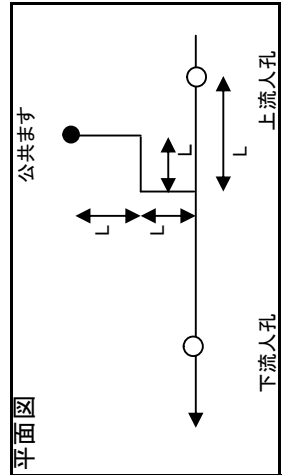
Ⓐ タイプ

汚水樹及び取付管材料使用表

人孔番号 A= (No. 3) ~ B= (No. 4) 間 土地所有者(東広島下水) その()
 (19.90 m) (上流人孔からの距離)



※取付管を平面的に曲げた場合は、平面的な寸法を詳細に記入すること



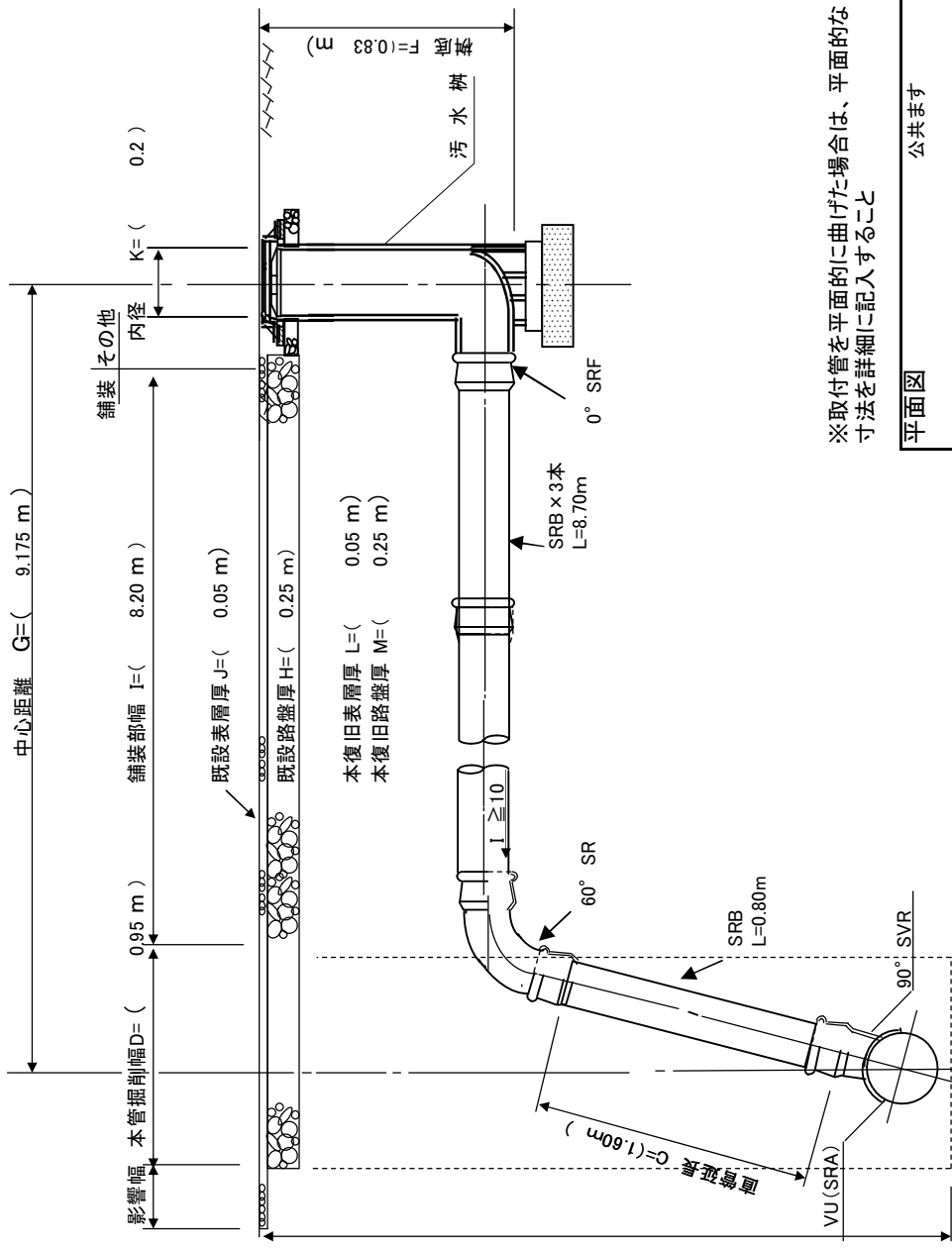
記載上の注意
 1. ()内は全て、実測数値を記入すること。
 2. A、B及びCタイプにより適宜様式を替えて記入のこと。
 3. 上記図は概要図とし、管配列の詳細は備考欄に詳しく記載すること。
 4. 既設舗装厚(J)は、安定処理層も含んだ値とすること。
 5. 復旧欄には、公共柵からその値(図示)の部分の復旧方法・仕様・数量を明記し、必要に応じ詳細図を添付すること。

名称	内容	数量	備考
直管延長		1.85m	
直管	SRB φ150 L= 800	1.60m	
	SRB φ150 L= 250	0.25m	
曲管	15°	個	
	30°	個	
	45°	1個	
	60°	個	
支管	90° SVR200-150	1個	
	0° SRF	1個	
その他		1m	
管埋設シート			
材料		6箇所	
取付管接着剤		箇所	
支管接着剤		1箇所	
備考	塩ビ柵 φ200	HC=(0.80) m	
	柵底	F=(0.90) m	
	柵深	H=(0.80) m	
	塩ビ製蓋	個	
	内蓋φ200	1個	
防護蓋	T-8	2個	
備考	SRB 2本	L=1.60m	
	SRB L=0.25m		
備考	90° SVR		
	45° SR		
備考	0° SRF		
	800HC		
復旧	土間コン撤去復旧		
	A=1.0m ² t=10cm		

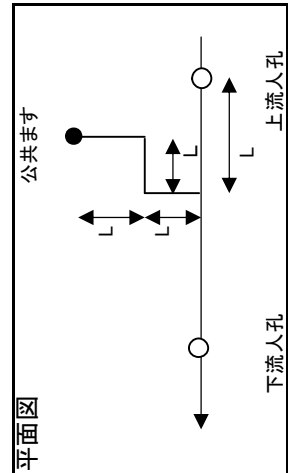
取付管出来形図

② タイプ

人孔番号 A= (No. 3) ~ B= (No. 4) 間 土地所有者(東広島太郎) 其の()
 (19.90 m) (上流人孔からの距離)



※取付管を平面的に曲げた場合は、平面的な寸法を詳細に記入すること



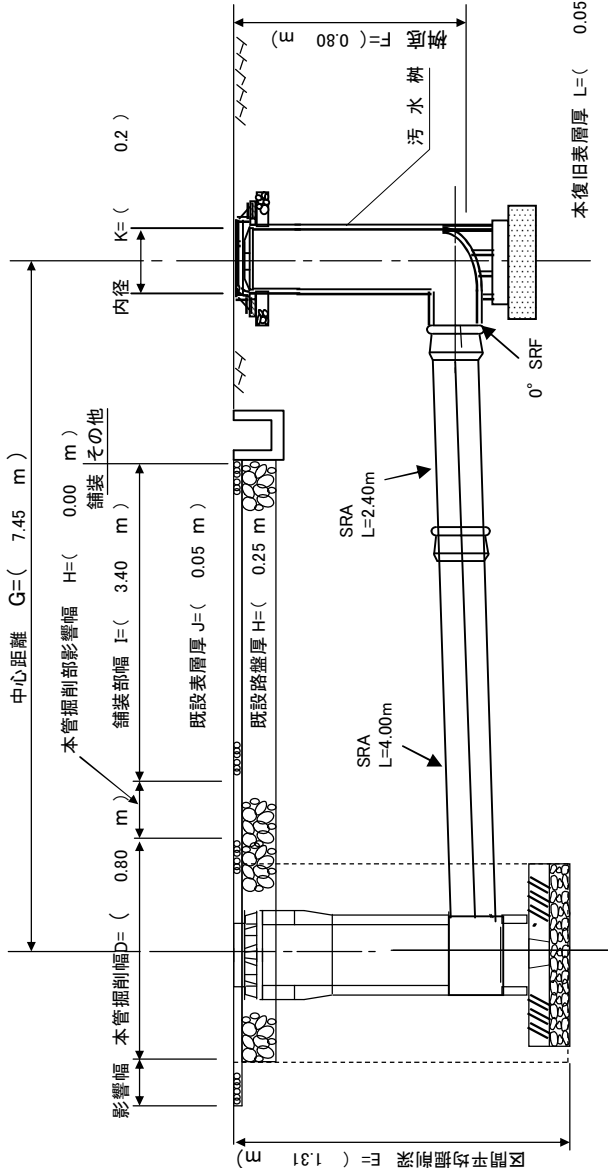
記載上の注意
 1. ()内は全て、実測数値を記入すること。
 2. A、B及びCタイプにより適宜様式を替えて記入のこと。
 3. 上記図は概要図とし、管配列の詳細は備考欄に詳しく記載すること。
 4. 既設舗装厚(U)は、安定処理層も含んだ値とすること。
 5. 復旧欄には、公共枘からその値(図示)の部分の復旧方法・仕様・数量を明記し、必要に応じ詳細図を添付すること。

汚水枘及び取付管材料使用表

名称	内 容	数 量	備 考
直管延長	ST φ 100 L=4000	9.175m	
直管	SRB φ 100 L=800	8.70m	
直管	SRB φ 100 L=800	1.60m	
曲管	15°		
曲管	30°		
曲管	45°		
曲管	60°	1個	
支管	90° SVR200-150	1個	
その他	0° SRF	1個	
管理設シート		1m	
滑 材		3箇所	
取付管接着剤		1箇所	
支管接着剤		1箇所	
塩ビ枘 φ 200	HC=(0.80) m		
枘底	F=(0.83) m		
枘深	H=(0.68) m		
みかけ蓋		個	
内蓋φ200		1個	
防護蓋 T-8		1組	
備 考			
復 旧			土間コン撤去復旧

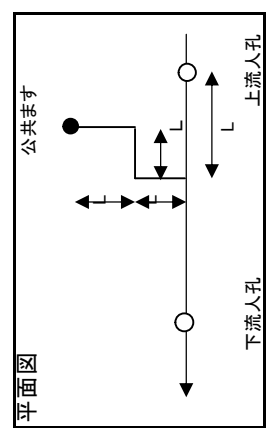
人孔番号 A= (No.10)

土地所有者(東広島下水) その()



本復旧表層厚 L=(0.05 m)
本復旧路盤厚 M=(0.25 m)

※取付管を平面的に曲げた場合は、平面的な寸法を詳細に記入すること



- 記載上の注意
1. ()内は全て、実測数値を記入すること。
 2. A、B及びCタイプにより適宜様式を替えて記入のこと。
 3. 上記図は概要図とし、管配列の詳細は備考欄に詳しく記載すること。
 4. 既設舗装厚(J)は、安定処理層も含んだ値とすること。
 5. 復旧欄には、公共枳からその値(図示)の部分の復旧方法・仕様・数量を明記し、必要に応じ詳細図を添付すること。

名称	内容	数量	備考
直管延長	6.40m		
直管	SRA φ150 L=4,000	4.00m	
	SRA φ150 L=2,400	2.40m	
曲管	15°	個	
	30°	個	
	45°	個	
	60°	個	
支管	90° SVR200-150	1個	
	0° SRF	1m	
その他 管理設シート		個	
		0.00m	
		0.00m	
滑材		3箇所	
		箇所	
		箇所	
取付管接着剤 支管接着剤	塩化枳 φ200 HC=(0.70) m		
	枳底 F=(0.80) m		
	枳深 H=(0.70) m		
	みかけ蓋	個	
	内蓋φ200	1個	
	防護蓋 T-8	1個	
備考			
復旧			

2. 市担当者が行うべきチェック等

(1) 完成平面図

タイトル部の内容に誤りはないか(工事番号・工事名・工期等)

方位・住所・家屋名等の地形情報に漏れ・誤りは無いか。

管きょ・人孔・取付管等、記載すべき施設の漏れ、あるいは表示記号に誤りは無いか。

人孔番号・取付管番号・人孔オフセット値に漏れは無いか。

(2) 添付図面等

特殊人孔構造図、あるいは特殊な形状の管渠断面図が添付されているか。

引取手続きのなされていない既設管を利用する場合、その完成図が作成されているか。

次頁に見本完成図を添付する。

